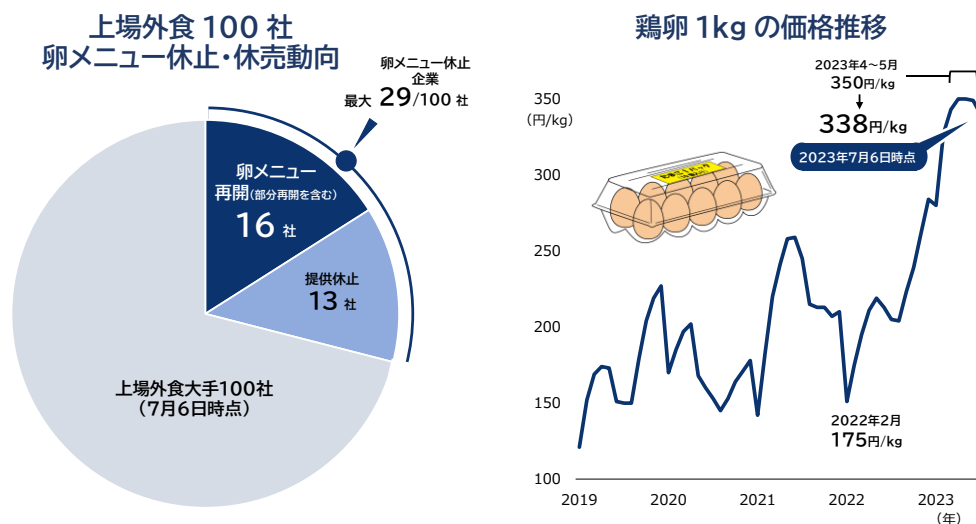


特別企画：「上場主要外食 100 社」卵メニュー休止状況調査（2023 年 7 月）

「卵メニュー」復活 休止の半数で再開 品薄解消で「エッグショック」収束へ

今年に入り、全国に広がった外食産業の「エッグショック」が、徐々に収束へと向かっている。上場する外食大手 100 社のうち、2023 年に入って卵メニューの休止・休売状態となった企業は、7 月 6 日時点で 13 社判明した。5 月調査時点では最大 29 社が卵メニューの提供を休止していたが、6 月末までに提供再開の動きが判明した企業は 16 社に上り、半数が休止から再開へと転じた。鶏卵の調達ルートや在庫量、業態によって提供再開への動きにはバラつきがあるものの、外食産業における「卵メニュー」提供休止の圧力は徐々に緩和へと向かっている。

JA 全農たまごによれば、7 月の鶏卵 1kg（東京 M サイズ）の卸売価格平均は 6 日時点で 338 円と、過去最高値だった 5 月から 12 円下落した。足元では国内鳥インフルエンザの「清浄化」も重なって鶏卵供給量が回復しているほか、加工用の輸入鶏卵も大幅に増加している。ただ、輸入トウモロコシなど飼料価格や電気代の上昇など養鶏コストは増加が続いており、鶏卵価格の大幅な下落は見込みづらい。外食産業の卵メニュー休止の動きは緩やかに解消に向かうとみられるものの、卵価の高止まりを理由とした「値上げ」が今後広がる可能性がある。



[出典] 鶏卵価格の年次別月別推移 (全農:東京Mサイズ)

[注] 各社発表（店頭開示含む）に基づく。対象は、季節限定などを除いた各社定番メニューを主体とした

株式会社帝国データバンク 情報統括部長 藤井 俊

【問い合わせ先】 飯島 大介 03-5919-9343 (直通) daisuke.iijima@mail.tdb.co.jp

情報統括部: tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。